

2008年5月17日

報道関係各位

東京急行電鉄株式会社

池上線における回送車両の踏切進入について

東京急行電鉄（本社：東京都渋谷区、社長：越村敏昭）では、本日（5月17日）未明、池上線の踏切において、警報機および遮断棒が動作していない状況で回送車両が踏切に進入するという事故が発生いたしましたので、下記のとおりお知らせします。

お客様、近隣にお住まいの皆さまをはじめ、関係各位にはご心配、ご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。

記

1. 発生日時 2008年5月17日（土）0時45分頃
2. 発生場所 池上線 雪が谷大塚2号踏切（雪が谷大塚駅～御嶽山駅間・幅員6.7m）
（所在地：東京都大田区南雪谷2-15-15）
3. 事故状況

0時45分頃、雪が谷大塚駅下り線ホームから留置線に入庫しようとした回送車両（3両編成）の運転士が、停止信号と雪が谷大塚2号踏切の踏切動作反応灯を見落とし、時速約13kmで踏切に進入しました。この時、同踏切は遮断棒が上がった状態のままとなっており、警報機も動作しておりませんでした。

担当運転士は、踏切が動作していない状態に気づき、直ちにブレーキをかけ車両を停止させる処置をとりました。

当該車両は先頭部分が約13m踏切を越えて停車しました。

同踏切を通行しようとしている歩行者および自動車などはありませんでした。

当該車両は、現場に急行した係員が周囲の安全を確認後、所定の位置（踏切の手前）に戻しました。

踏切動作反応灯

踏切が正常に動作していることを、接近する列車の運転士に知らせる装置です。遮断棒が確実に降下すると×印が点灯し、遮断棒が上がっている場合は赤色灯が点灯します。

4．背景・原因

本来、当該車両は当該踏切の手前に留置する予定でしたが、運転士の思い込みにより当該踏切の先にある留置線に止めようとした際、運転士が停止信号と踏切動作反応灯を見落としたことが原因です。

5．対 策

従業員に対し正則作業を徹底させるとともに、再教育を実施いたします。

以 上